

インフルエンザワクチンの予防接種をご希望の方に

＜予防接種を受ける前に＞

インフルエンザの予防接種について、必要性や副反応についてよく理解したうえで接種しましょう。予診票は接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。接種を受ける方が責任を持って記入し、正しい情報を接種医に伝えてください。不明な点は医師に相談してください。

本人が接種を希望される場合のみに予防接種を行います。麻ひなどで自署ができない場合は、家族の方がご本人の意思を十分確認したうえで、代理署名をしてください。

【ワクチンの効果と副反応】

ワクチンの接種によって、インフルエンザにかかりにくくなります。あるいは、たとえかかっても症状の重症化を抑えることができ、合併症や死亡する危険性を抑えられるため、高齢者に対して接種することが勧められています。

ワクチン接種に伴う副反応により、発熱や、注射部位が赤くはれたり、硬くなったりすることがあります。

また、極めてまれに、脳炎や肝機能障害などの重い副反応が生じることがあります。このような場合、厚生労働大臣が予防接種を受けたためと認定したときは、予防接種法に基づく健康被害救済制度の給付の対象となります。

【次の方は接種を受けないでください】

- 1) 明らかに発熱している方（通常は37.5℃をこえる場合）
- 2) 重い急性疾患にかかっている方
- 3) 本剤の成分により、アナフィラキシーを起こしたことがある方
- 4) 前回のインフルエンザ予防接種で、2日以内に発熱及び全身性発疹、じんましんなどのアレルギーを疑う症状のみられた方
- 5) いつも診てもらっている医師に『ワクチンは受けない方がいい』と言われた方

【次の方は接種前に医師にご相談ください】

- 1) 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患及び血液疾患などの基礎疾患のある方
- 2) 薬の投与又は食事（鶏卵、鶏肉など）で発疹が出たり異常をきたしたことがある方
- 3) 過去にけいれんの既往歴のある方や免疫異常を指摘されたことがある方
- 4) 間質性肺炎、気管支喘息等の呼吸器系疾患のある方

【予防接種を受けた後の一般的注意事項】

- 1) 予防接種を受けた後30分間は、急な副反応が起こることがあります。医師（医療機関）とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。
- 2) インフルエンザワクチンの副反応の多くは24時間以内に出現しますので、特にこの間は体調に注意しましょう。
- 3) 入浴は差し支えありませんが、注射した部位を強くこすることはやめましょう。
- 4) 接種当日はいつも通りの生活をしてかまいませんが、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。